

北海道大学の鉄道研究会

平成 27 年度学生チャレンジプロジェクトのグループ「ぐっ JOB」は電気電子システム学科の学生が多く加わっており、「ぐっとくるジオラマ」で最優秀賞に輝きました。2016 年 3 月の北海道新幹線開業において、通過点と

えなる八戸、青森、弘前、函館の魅力を、出身学生が発信するというものでした。北海道新幹線は今年 3 月 26 日(土)に開業し、「ぐっ JOB」は八戸駅新幹線乗り場でジオラマの展示説明を行いました。

そこに北海道大学の鉄道研究会(北大鉄研)方が取材で来ら

れ、写真のように北大鉄研の機関紙「混合列車」に記事が掲載されました。その末尾で「筆者が感じたことは、八戸という、一見北海道新幹線とは関係の薄いと思われる地域の同じ世代である大学生が、北海道新幹線について取りあげ、盛り上げていこうという取り組みを大々的に計画し、実行するという、熱意と行動力である。」とありました。鉄道への思いが同じもの同士、大学間での繋がりが持てた出来事でした。

○出典：菅原朔太郎：「5.1 東北新幹線八戸駅の様子」, 発行：北大鉄研, 混合列車, No.45, pp.109-112(2016).



図 5.2 北海道新幹線開業前のホームの電光掲示板。「北海道」・「新函館北斗」がシールで隠されている。また、改正ではやぶさ 95 号の自由席の設定も消滅した



図 4.5 シールがはがされた後の下りホームの案内。ちなみに、八戸駅で函館の駅名が入った行先の定期列車は 2010 年 12 月以来、約 5 年 4 か月ぶりである。



図 5.3 北海道新幹線開業後の下りホームの案内の様子。



図 5.4 北海道新幹線開業後の電光掲示板。行き先表示器の新函館北斗の文字が窮屈である

ただのお祭りムードだけでは他の駅と同じだったかもしれないが、八戸駅は一枚も二枚も違っていた。それは地元の大学生による独自の取り組みである。八戸工業大学学生チャレンジプロジェクト「ぐっ JOB」である。八戸工業大学の有志の学生団体で、メンバーには鉄道好きの方も居る。この北海道新幹線開業のために、1 週間以上前から準備をしていたようで、筆者も開業日の 5 日前に写真を撮らせてももらっていた。展示内容(図 5.6~図 5.14)は、新函館北斗駅、新青森駅、八戸駅、それと青函トンネルを挟んだ新幹線・海峽線レイアウトと、そのレイアウトの内側にある弘前駅を模してある小さなレイアウトの二つである。外側では、H5 系新幹線「はやぶさ」や、3 月 21 日で運行を終了した急行「はまなす」、内側では 3 月 25 日まで 8751 系の代走で運用に就いていた 485 系 3000 番台の特急「つがる」が走っていた(ご丁寧にホームマークはつがるになっていた)。このほかにも、ポスター形式の掲示があり、開業する北海道新幹線について、北海道新幹線と貨物列車牽引機